

# 定 款

社会福祉法人 清 光 会

## 第 1 章 総 則

### (目的)

第1条 この社会福祉法人（以下「法人」という。）は、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援することを目的として、次の社会福祉事業を行う。

- (1) 第一種社会福祉事業  
障害者支援施設 の経営
- (2) 第二種社会福祉事業
  - (イ) 障害福祉サービス事業の経営
  - (ロ) 生計困難者に対する相談支援事業

### (名称)

第2条 この法人は、社会福祉法人 清光会 という。

### (経営の原則)

第3条 この法人は、社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を確実、効果的かつ適正に行うため、自主的にその経営基盤の強化を図るとともに、その提供する福祉サービスの質の向上並びに事業経営の透明性の確保を図り、もって地域福祉の推進に努めるものとする。

2 この法人は、地域社会に貢献する取組として、地域の独居高齢者、経済的に困窮する者等を支援するため、無料又は低額な料金で福祉サービスを積極的に提供するものとする。

### (事務所の所在地)

第4条 この法人の事務所を、宮崎県宮崎市清武町今泉甲816番地に置く。

## 第 2 章 評議員

### (評議員の定数)

第5条 この法人に評議員7名を置く。

### (評議員の選任及び解任)

第6条 この法人に評議員選任・解任委員会を置き、評議員の選任及び解任は、評議員選任・解任委員会において行う。

2 評議員選任・解任委員会は、監事1名、事務局員1名、外部委員1名の合計3名で構成する。

3 選任候補者の推薦及び評議員の解任の提案は、理事会が行う。評議員選任・解任委員会の運営についての細則は、理事会において定める。

4 選任候補者の推薦又は評議員の解任の提案を行う場合には、当該者が評議員として適任又は不適任と判断した理由を委員に説明しなければならない。

5 評議員選任・解任委員会の決議は、委員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。ただし、外部委員が出席し、かつ、外部委員が賛成することを要する。

### (評議員の任期)

第7条 評議員の任期は、選任後4年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

2 任期の満了前に退任した評議員の補欠として選任された評議員の任期は、退任した評議員の任期の満了する時までとする。

- 3 評議員は、第5条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお評議員としての権利義務を有する。

(評議員の報酬等)

第8条 評議員に対して、各年度の総額が300,000円を超えない範囲で、評議員会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を、報酬として支給することができる。

### 第 3 章 評議員会

(構成)

第9条 評議員会は、全ての評議員をもって構成する。

(権限)

第10条 評議員会は、次の事項について決議する。

- (1) 理事及び監事の選任又は解任
- (2) 理事及び監事の報酬等の額
- (3) 理事及び監事並びに評議員に対する報酬等の支給の基準
- (4) 計算書類（貸借対照表及び収支計算書）及び財産目録の承認
- (5) 定款の変更
- (6) 残余財産の処分
- (7) 基本財産の処分
- (8) 社会福祉充実計画の承認
- (9) その他評議員会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項

(開催)

第11条 評議員会は、定時評議員会として毎会計年度終了後3箇月以内に1回開催するほか、必要がある場合に開催する。

(招集)

第12条 評議員会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき理事長が招集する。この場合、評議員会の日の5日前までに、各評議員に招集を通知する。

- 2 評議員は、理事長に対し、評議員会の目的である事項及び招集の理由を示して、評議員会の招集を請求することができる。

(決議)

第13条 評議員会の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

- 2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の3分の2以上に当たる多数をもって行わなければならない。

- (1) 監事の解任
- (2) 定款の変更
- (3) その他法令で定められた事項

- 3 理事又は監事を選任する議案を決議するに際しては、各候補者ごとに第1項の決議を行わなければならない。理事又は監事の候補者の合計数が第15条に定める定数を上回る場合には、過半数の賛成を得た候補者の中から得票数の多い順に定数の枠に達するまでの者を選任することとする。

- 4 第1項及び第2項の規定にかかわらず、評議員（当該事項について議決に

加わることができるものに限る。)の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、評議員会の決議があったものとみなす。

(議事録)

第14条 評議員会の議事については、法令に定めるところにより、議事録を作成する。

2 議長及び出席した評議員のうちから選出された議事録署名人2名が前項の議事録に署名又は記名押印する。

## 第4章 役員及び職員

(役員の数)

第15条 この法人には、次の役員を置く。

(1) 理事 6名

(2) 監事 2名

2 理事のうち1名を理事長とする。

3 理事長以外の理事のうち、1名を業務執行理事とすることができる。

(役員を選任)

第16条 理事及び監事は、評議員会の決議によって選任する。

2 理事長及び業務執行理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

(理事の職務及び権限)

第17条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。

2 理事長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行し、業務執行理事は、理事会において別に定めるところにより、この法人の業務を分担執行する。

3 理事長及び業務執行理事は、毎会計年度に4箇月を超える間隔で2回以上、自己の職務の執行状況を理事会に報告しなければならない。

(監事の職務及び権限)

第18条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

2 監事は、いつでも、理事及び職員に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

(役員任期)

第19条 理事又は監事の任期は、選任後2年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

2 補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了する時までとする。

3 理事又は監事は、第15条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

(役員解任)

第20条 理事又は監事が、次のいずれかに該当するときは、評議員会の決議によって解任することができる。

(1) 職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき。

(2) 心身の故障のため、職務の執行に支障があり、又はこれに堪えないとき。

(役員報酬等)

第21条 理事及び監事に対して、評議員会において別に定める総額の範囲内で、

評議員会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を、報酬として支給することができる。

(職員)

第22条 この法人に、職員を置く。

2 この法人の設置経営する施設の長他の重要な職員（以下「施設長等」という。）は、理事会において、選任及び解任する。

3 施設長等以外の職員は、理事長が任免する。

## 第 5 章 役員等の損害賠償責任の免除

(損害賠償責任の免除)

第23条 この法人は、社会福祉法第45条の20第4項において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（平成18年法律第48号、以下「一般法人法」という。）第114条第1項の規定に基づき、任務を怠ったことによる理事又は監事（理事又は監事であった者を含む。）の損害賠償責任を、同法第113条第1項の規定により免除することのできる額を限度として理事会の決議により免除することができる。

(責任限定契約)

第24条 この法人は、社会福祉法第45条の20第4項において準用する一般法人法第115条第1項の規定により、同項に規定する非業務執行理事等との間で、任務を怠ったことによる損害賠償責任を限定する契約を締結することができる。ただし、当該契約に基づき限定される損害賠償責任額は同法第113条第1項第2号で定める最低責任限度額とする。

## 第 6 章 理事会

(構成)

第25条 理事会は、全ての理事をもって構成する。

(権限)

第26条 理事会は、次の職務を行う。ただし、日常の業務として理事会が定めるものについては理事長が専決し、これを理事会に報告する。

(1) この法人の業務執行の決定

(2) 理事の職務の執行の監督

(3) 理事長及び業務執行理事の選定及び解職

(招集)

第27条 理事会は、理事長が招集する。

2 理事長が欠けたとき又は理事長に事故があるときは、各理事が理事会を招集する。

(決議)

第28条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、理事（当該事項について議決に加わることができるものに限る。）の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたとき（監事が当該提案について異議を述べたときを除く。）は、理事会の決議があったものとみなす。

(議事録)

第29条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成す

る。

2 理事会に出席した理事長及び監事は、前項の議事録に署名又は記名押印する。

## 第 7 章 資産及び会計

### (資産の区分)

第 30 条 この法人の資産は、これを分けて基本財産とその他財産の 2 種とする。

2 基本財産は、次の各号に掲げる財産をもって構成する。

(1) 宮崎県宮崎市清武町今泉甲 8 1 6 番地 1 所在の

清友の里 療護院 鉄筋コンクリート造陸屋根 2 階建	1 棟 1 階	1,945.51 平方メートル
清友の里 療護院 鉄筋コンクリート造陸屋根 2 階建	1 棟 2 階	358.93 平方メートル
清友の里 洗濯場 鉄筋コンクリート造陸屋根平家建	1 棟	40.22 平方メートル

(2) 宮崎県宮崎市清武町今泉甲 8 1 6 番地 5 所在の

清友の里 倉庫 鉄骨造スレート葺 2 階建	1 棟 1 階	13.40 平方メートル
清友の里 倉庫 鉄骨造スレート葺 2 階建	1 棟 2 階	64.26 平方メートル
	延面積	2,422.32 平方メートル

(3) 宮崎県宮崎市清武町今泉甲 2 6 8 番 1

宮崎県宮崎市清武町今泉甲 8 1 5 番 6 542.00 平方メートル

宮崎県宮崎市清武町今泉甲 8 1 6 番 1 277.45 平方メートル

宮崎県宮崎市清武町今泉甲 8 1 6 番 4 1,215.35 平方メートル

宮崎県宮崎市清武町今泉甲 8 1 6 番 5 433.00 平方メートル

宮崎県宮崎市清武町今泉甲 8 1 6 番 6 1,344.60 平方メートル

宮崎県宮崎市清武町今泉甲 8 1 6 番 7 623.89 平方メートル

宮崎県宮崎市清武町今泉甲 8 1 6 番 8 251.16 平方メートル

宮崎県宮崎市清武町今泉甲 8 1 6 番 8 39.00 平方メートル

宮崎県宮崎市清武町今泉甲 2 6 7 番 1 368.00 平方メートル

所在の清友の里敷地 9 筆 延面積 5,094.45 平方メートル

3 その他財産は、基本財産以外の財産とする。

4 基本財産に指定されて寄附された金品は、速やかに第 2 項に掲げるため、必要な手続をとらなければならない。

### (基本財産の処分)

第 31 条 基本財産を処分し、又は担保に供しようとするときは、理事会及び評議員会の承認を得て、宮崎市長の承認を得なければならない。ただし、次の各号に掲げる場合には、宮崎市長の承認は必要としない。

(1) 独立行政法人福祉医療機構に対して基本財産を担保に供する場合

(2) 独立行政法人福祉医療機構と協調融資（独立行政法人福祉医療機構の福祉貸付が行う施設整備のための資金に対する融資と併せて行う同一の財産を担保とする当該施設整備のための資金に対する融資をいう。以下同じ。）に関する契約を結んだ民間金融機関に対して基本財産を担保に供する場合（協調融資に係る担保に限る。）

### (資産の管理)

第 32 条 この法人の資産は、理事会の定める方法により、理事長が管理する。

2 資産のうち現金は、確実な金融機関に預け入れ、確実な信託会社に信託し、又は確実な有価証券に換えて、保管する。

### (事業計画及び収支予算)

第 33 条 この法人の事業計画書及び収支予算書については、毎会計年度開始の日の前日までに、理事長が作成し、理事会の承認を受けなければならない。これ

を変更する場合も、同様とする。

2 前項の書類については、主たる事務所に、当該会計年度が終了するまでの間備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

(事業報告及び決算)

第34条 この法人の事業報告及び決算については、毎会計年度終了後、理事長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を受けなければならない。

- (1) 事業報告
- (2) 事業報告の附属明細書
- (3) 貸借対照表
- (4) 収支計算書(資金収支計算書及び事業活動計算書)
- (5) 貸借対照表及び収支計算書(資金収支計算書及び事業活動計算書)の附属明細書
- (6) 財産目録

2 前項の承認を受けた書類のうち、第1号、第3号、第4号及び第6号の書類については、定時評議員会に提出し、第1号の書類についてはその内容を報告し、その他の書類については、承認を受けなければならない。

3 第1項の書類のほか、次の書類を主たる事務所に5年間備え置き、一般の閲覧に供するとともに、定款を主たる事務所に備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

- (1) 監査報告
- (2) 理事及び監事並びに評議員の名簿
- (3) 理事及び監事並びに評議員の報酬等の支給の基準を記載した書類
- (4) 事業の概要等を記載した書類

(会計年度)

第35条 この法人の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日をもって終わる。

(会計処理の基準)

第36条 この法人の会計に関しては、法令等及びこの定款に定めのあるもののほか、理事会において定める経理規程により処理する。

(臨機の措置)

第37条 予算をもって定めるもののほか、新たに義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、理事総数の3分の2以上の同意がなければならない。

## 第 8 章 解散

(解散)

第38条 この法人は、社会福祉法第46条第1項第1号及び第3号から第6号までの解散事由により解散する。

(残余財産の帰属)

第39条 解散(合併又は破産による解散を除く。)した場合における残余財産は、評議員会の決議を得て、社会福祉法人並びに社会福祉事業を行う学校法人及び公益財団法人のうちから選出されたものに帰属する。

## 第 9 章 定款の変更

(定款の変更)

第40条 この定款を変更しようとするときは、評議員会の決議を得て、宮崎市長の認可（社会福祉法第45条の36第2項に規定する厚生労働省令で定める事項に係るものを除く。）を受けなければならない。

2 前項の厚生労働省令で定める事項に係る定款の変更をしたときは、遅滞なくその旨を宮崎市長に届出なければならない。

## 第 10 章 公告の方法その他

(公告の方法)

第41条 この法人の公告は、社会福祉法人清光会の掲示場に掲示するとともに、官報、新聞又は電子公告に掲載して行う。

(施行細則)

第42条 この定款の施行についての細則は、理事会において定める。

附 則

この法人の設立当初役員は、次のとおりとする。ただし、この法人の成立後遅滞なく、この定款にもとづき、役員を選任を行うものとする。

理事長	戸 高 智 弘
理事	松 田 正
理事	川 添 睦 美
理事	山 田 美 義
理事	松 下 馨
理事	前 田 幸 徳
理事	坂 本 徳 夫
理事	崎 田 諒
理事	豊 浦 謙 治
理事	佐 藤 俊 光
理事	戸 高 勝 廣
理事	戸 高 富 男
理事	船ヶ山 達 夫
監事	野 崎 重
監事	矢 野 忠 一

附 則

この定款は、平成29年4月1日から施行する。

第5条で定める評議員の人数は、平成29年4月1日から平成32年3月31日までの間は、「4名」とする。



# 社会福祉法人清光会 役員等報酬及び費用に関する規程

## (目 的)

第1条 この規程は、社会福祉法人清光会の役員及び評議員等の報酬及び費用について定めるものである。

## (定 義)

第2条 この規程において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- (1) 役員とは、定款第15条に基づき選任された理事及び監事をいう。
- (2) 常勤役員とは、施設の職員を兼務し、職員として常時従事する者をいう。
- (3) 非常勤役員とは、常勤役員以外の役員をいう。
- (4) 評議員とは、定款第5条に基づき選任された者をいう。
- (5) 報酬とは、社会福祉法第45条の35第1項に定める報酬等をいい、報酬、賞与其他職務遂行の対価として受ける財産上の利益をいい、その名称の如何を問わない。費用とは明確に区分されるものである。
- (6) 費用とは、職務の遂行に伴い発生する交通費、通勤費、旅費(宿泊費を含む)、手数料等の経費をいう。報酬等とは明確に区分されるものである。

## (常勤役員の報酬等の算定方法)

第3条 常勤役員に対しては、役員報酬は支給しない。

## (非常勤役員及び評議員の報酬等の算定方法)

第4条 非常勤役員及び評議員に対する報酬等の額は、次の各号による報酬等の区分に応じて定めるものとする。

- (1) 非常勤役員の報酬は、別表第1「非常勤役員の報酬」に定める額とする。
- (2) 評議員の報酬は、別表第2「評議員の報酬」に定める額とする。

## (費 用)

第5条 非常勤役員及び評議員が、会議に出席する場合又は職務の執行のため出張する場合は、別表第3「旅費交通費」に定める旅費を支給することができる。

- 2 役員及び評議員がその職務の執行に当たって負担し、又は負担した費用については、これを請求のあった日から遅滞なく支払うものとし、また、前払いを要するものについては前もって支払うものとする。

## (重複支給の防止)

第6条 同一日において、当該役員等報酬規程による報酬等の支給の対象となる業務に複数回従事したときは、重複して支給しないものとする。

(報酬等の支給方法)

第7条 第4条及び第5条に定める報酬等は、業務を行った都度支給する。

(公表)

第8条 当法人は、この規程をもって、社会福祉法第59条の2第1項第2号に定める報酬等の支給の基準として公表するものとする。

(改廃)

第9条 この規程の改廃は、評議員会の議決により行うものとする。

(補則)

第10条 この規程の実施に関し必要な事項は、理事長が理事会の承認を得て、別に定めるものとする。

附則

この規程は、平成29年 6月18日より適用する。

附則(平成31年 3月 1日一部改正)

この規程は、平成30年 4月 1日より適用する。

別表第1（非常勤役員の報酬）

（1）理事

	日額
理事会等会議への出席	10,000円
上記の他、法人施設業務のための出勤	10,000円

（2）監事

	日額
監事監査等への出席	10,000円
理事会等会議への出席	10,000円
上記の他、法人施設業務のための出勤	10,000円

別表第2（評議員の報酬）

	日額
評議員会等会議への出席	10,000円
上記の他、法人施設業務のための出勤	10,000円

別表第3（旅費交通費）

区分	旅費交通費
自家用車	公共交通機関利用と同額
公共交通機関	実費
宿泊費	実費
必要経費	実費

社会福祉法人 清光会 評議員名簿

令和2年4月1日現在

氏名	年齢	住所	職業
川越 和秀	68	宮崎市内	有
小玉 つやみ	64	宮崎市内	無
楠原 知恵美	56	宮崎市内	無
橋口 和洋	71	宮崎市内	有
内藤 和弘	62	宮崎市内	有
安部 智枝	61	宮崎市内	有
片岡 奈奈子	60	国富町内	有

# 社会福祉法人 清光会 役員名簿

令和元年6月8日現在

役職名 代表権	氏名	年齢	職業	社会福祉 関係歴・従事内容		親族等 関係者
				関係歴	従事内容	
理事長 (有)	安永 正弘	61	清友の里 施設長	24年 21年	清友の里 清光会理事	大崎 雅彦 の義兄
理事 (無)	上原 晴海	76	無	14年 13年	清光会監事 清光会理事	無
理事 (無)	大坪 剛一	69	会社経営	7年 13年	しおみの里 清光会理事	無
理事 (無)	田代佳代子	59	宮崎学園 短期大学	21年	清光会理事	無
理事 (無)	大崎 雅彦	57	清友の里 副施設長	30年 2年	清友の里 清光会理事	安永 正弘 の義弟
理事 (無)	徳満優太郎	47	清友の里 支援係長	18年	清友の里	無
監事 (無)	山下 幸司	48	福祉施設 職員	23年 11年	まほろば福祉会 清光会監事	無
監事 (無)	岩村千鶴子	66	無	4年 9年	清光会評議員 清光会監事	無